

3学年通信

Dreams come true

山形県立米沢興譲館高等学校

3 学年通信 43 号 通算 223 号

2017. 7. 24 (月) +177 点

Dreams Come True 18

先週木曜日 (20 日) 横戸校長先生から 3 年生に「激励」を頂きました。先生から、陸上部とフェンシング部のインターハイ出場への「お褒めの言葉&健闘を祈る！」と。また、野球の甲子園予選 VS 鶴岡工業戦では「3, 4 番の活躍で 9 回裏に入れた執念の 1 点は素晴らしい！」と。その他、SSH に関することや、吹奏楽コンクールのこと、果ては T 世応援団長の話もありました。私は、その話をお聞きする 3 年生諸君の目の輝きが「ランラン♡」としていたのを見逃しませんでした。様々な場面で諸君の様子を見てきましたが、ランラン度においては「間違いなくベスト 3 の名場面？」でした。先生の話をお聞きした後、諸君は無意識のうちに先生に拍手を贈りました。それは、私には感動的な場面であったとともに、「自分も良い話ができるようにならなくちゃ！」と自戒もした瞬間でした。先生は放課後講習の様子や職員室に質問に来る生徒を見て「3 年生頑張っているね」と私に声をかけてくれます。それは私の大きな励みです。岸校長先生がご退職され (持ちネタを失った私は?) 失意のうちに新年度を迎えたわけですが、今度は横戸校長先生から熱意ある応援を頂くことができます。ありがとうございます。そのお礼として先生のモノマネを練習しますね？

続きになるのですが、横戸先生はお話の中で「不安はあるだろうが頑張れ！」と激励してくれました。このことについて、その後の数学ガイダンスで話したことを補足して書いてみようと思います。

高校 3 年生のとき、この私ですら不安でした。それは、今思うと「2 つの不安」だったように思います。その 1 つは「見えない将来に対する不安」です。大学受験はどうなるのだろうか、落ちたらどうするか、将来自分は何になっているのだろうか etc. という不確定な未来への不安です。これは、おそらく今の 3 年生諸君も同じはずですが、私にはもう 1 つの不安もありました。それは「落ちたら周囲からどのように見られるか」という不安でした。これは、私固有のものかもしれませんが、周囲の目を必要以上に気にしていた自分がいました。前者の不安は 51 歳になった今の私には無いもので、かつ後者の不安も (悲しいかな) あまりありません。ある意味、人間失格か？

前者の不安は、車の運転に例えれば「先の見えない山道をドライブしているようなもの」です。次のカーブの先には何があるのか、最後は行き止まりかもしれませんし、結局は間違っただ道かもしれません。逆に、それは考えようによっては「先の見えない喜び」です。カーブの先で、道の最後で思いがけない素敵な物や風景に出合える可能性があるからです。私はそのような喜びを感じたいので車にナビゲーションをつけません。その新たな出会いにドキドキしたいし、間違いすらも学びです。また、そのドライブに同乗者がいれば、その人と「この道でいいかな？」なんて同じドキドキを共有することもできます。少し変態的思考と思われるかもしれませんが、今の私には「先の見えない不安が無い」ゆえの反動です。健康にも恵まれていますし、諸君と過ごす仕事も日々楽しいし、家庭的にも

それほど大きな心配事はありません。モノやお金に固執するタイプでは無いので、何とかやるやと楽観的です。ですから、来年や再来年、10 年後のことも「こんな感じかな」と想像できるのです。それは安定といいますが、安全・安泰・安易・有りがちな人生とも言えます。それは、すごく大切なことですが、私はもう少し人生をドキドキしたいのです。とすれば、突発的な自然災害や事故・事件以外では、「自らその道を大きく変える」しか方法はありません。そのような気持ちはあるのですが、悲しいかな年々減退していくのです。さて、翻って今のアナタはどうでしょう。高校卒業後の自分はもちろん、10 年後の自分が「こんな感じだろう」と想定することはまず難しいですね。それは「不確定」だからです。しかし、不確定とは「決まっていない」ということ、すなわち今日からの 1 日 1 日で決まっていくということ。ガイダンスでは「自らが未来をデザインする」と話しました。つまり、自分の意思で道を選択し、運転の仕方 (ハンドル操作・速度・ブレーキ etc.) 次第で「どこにでも行くことができる」のです。ここで強調したいのは「できる」ということです。私は「自分の道をしっかり定めて、その実現に向けて邁進する人生」は理想だと思いますが、誰もができることでは無いことを知っています。あの頃の自分がそうだったように「成り行き任せの人生」だって恥ずかしくない生き方の 1 つだと思うのです。しかし、成り行きは消極的なドライブゆえに、少しだけ「出会いと出会いの喜び」に欠けるのです。これが惜しいと思うのです。人生は多くの喜びに満ち溢れていますが、それが「自分が求めた積極的な喜び」ならば何倍もの満足感と自信を得ることができると思うのです。う〜ん、少し難しいかな。つまり「好きと言われて付き合う」なのか「好きな人と付き合う」かの違いです (わかりやすい例!)。表題にあるように、センター試験までは 177 日、前期試験まで 220 日、米興卒業・合格発表まで 200 余日です。これだけの時間があるのなら、私は何だってできるという自信があります。それは過去の経験から蓄えた自信です。こんな成り行きの人ができるのだから、毎日 10 時間学ぶことのできる諸君なら何だってできます。ただ、経験と自信が無いだけです。前者の不安の原因はそんなことだと楽観視して下さい。

後者の不安を語ってしまったのは、最近「人間失格」をモチーフにしたマンガ (BCS 連載) に出会ったからかもしれません。作家は伊藤潤二さんという人なのだけれど、独特な世界観と画風にのめり込んでしまいました。久しぶりに書庫 (カッコイイ!) から人間失格取り出し読んでしまいました。10 年に一度は読みたいものです? 私はそんな読書家でも太宰治のファンでも無いのだけれど、数年前ふと思いたって青森県五所川原を訪れました。当然「五能線」でね。途中の乗り継ぎ駅を降りると何も無いのね。荒涼とした雰囲気ですね。ちょっと歩いて見つけた食堂でご飯を食べただけけれど、北の国感半端なかったです (北の国から「95 秘密」の風屋食堂のようだったかも?)。このような土地で太宰は育ったのか、何て感じて帰ってきたのだけれど。そう「他者からどのように見られるか気になる」これは (今、思い出したのだけれど以前も書いたね) 誰にでもあることだけれど若いときは凄く過剰だと思うのね。実は私もかなり過剰だったと思う。それは、それまで大きな失敗や挫折を経験していなかったことも起因していると思う。諸君の多くもそうだよ。今までの大きな関門である米興合格したし。だから初めての失敗や挫折であり、かつ、それを他者から「どう見られるか」という恐れは、当然「未経験」がゆえにあるわけだ。けれど、少なくとも「他者の評価」何てものは一切気にする必要が無いから。どんな運命がアナタを待ち迎えているようとも、家族は全てを受け入れてくれるから。ご親戚の方や「真の友人」も同じだ。一生アナタの側にいてくれる人は、そんなことでアナタを咎めたり笑ったりしない。でも、そんな人達は大切にしよう Z!

私は、先生が生徒のことをよく見て下さっていることをすごく嬉しく思いました。